

## 令和6（2024）年度 柏崎市交通安全対策会議 議事録

日 時 令和6（2024）年5月24日（金）午前10時から午前11時20分  
会 場 柏崎市役所 多目的室  
会 長 櫻井市長  
出席委員 渡辺委員、上村委員、山岸委員、星野委員（代理出席：柏崎市道路維持課堀井課長）、小黒委員、小林委員、高橋委員、清水委員、田中委員、姥貝委員、西村委員、大沢委員、田辺委員、永寶委員、本間委員  
欠席委員 近藤委員、今井委員  
事務局 土田市民活動支援課長、市民活動支援課生活安全係員

### 1 開会

### 2 会長挨拶

日頃から、交通事故の防止に御尽力いただき感謝する、昨年は1名の方が亡くなったと報告を受けている。国内では猛暑での熱中症や地震での圧迫死等多くの方が亡くなっている。柏崎警察署の方々の御努力により1名の死亡者にとどまっているという事は、皆様方のお力添えがあったからだと思う。今後も交通事故死ゼロに向けて御協力をいただきたい。

### 3 委員紹介

### 4 議事

－櫻井市長が議長を務める。－

#### (1) 令和5（2023）年交通事故概況について（報告）

－事務局説明－

質疑無し

#### (2) 第11次柏崎市交通安全計画重点施策の評価について（報告）

－事務局説明－

質疑無し

#### (3) 令和5（2023）年度柏崎市交通安全実施計画に基づく実施状況について（報告）

－事務局説明－

議 長：高齢者の交通事故において男性女性どちらが多いか。

委 員：正確な数字は分からないが、運転する人・歩行者を合わせると半々くらいと思う。

議 長：多くの意識啓発を行っているが、教室等に参加されている男女の比率はどのくらいか。

事務局：コツコツ貯筋体操会の後に出前講座を行っている場合が多いので女性が多い。

議 長：「あいくる」は、計画の2倍の一日100名が利用している。利用している三分の二は女性である。コツコツ貯筋体操を利用している人は、90%が女性である。男性は高齢になっても車を運転しているが、男性にも「あいくる」を利用してほしい。

#### (4) 令和6（2024）年度柏崎市交通安全実施計画（案）について

―事務局説明―

議 長：県教委が、高校に対して行っているヘルメット着用率の調査結果は把握しているか。

事務局：把握はしていないが、県交通安全対策室から確認をしてもらうこととしたい。

議 長：柏崎高校、柏崎工業高校の生徒が通学時にヘルメットを着用しているのは、ゼロである。

県の方でも、ヘルメットの購入に対して少しお手伝いをするという方向性が出ている。それに合わせて市でも考えていきたいと思っている。対象は全世代という事ではなく、18歳以下が対象になるよう調整をしている。

委 員：4ページの横断歩行者安全確保が拡充となっている。小学生が横断歩道において事故に遭うというニュースを度々聞いている。手を上げていても車が飛び込んでくる。小中学生や高齢者に対して指導を強化していただきたい。

事務局：本年度は通年運動として「止まって横断歩道キャンペーン」を実施することから拡充項目とした。安協でも、歩行者保護の「横断歩道止まりますステッカー」のデザインを募集して、最優秀のデザインでステッカーを作成し、各事業所の車に貼ってもらう活動を計画している。

議 長：本町通りは、車がほとんど走っていない状況である。信号の無い横断歩道が2か所ほどある。1か所は「かました」前、もう1か所は柏高の入口にある。柏高の入口では、生徒が横断するが、停まらずに進む車をよく見かける。信号の無い横断歩道でも、しっかりと一時停止をする意識を高めていただきたい。

委 員：高校生の自転車ヘルメットの話が出たので、情報提供する。県の保健体育課からヘルメットの着用調査が来ている。集約を行った後、何らかの動きが出て来ると思う。本校は120名ほど自転車通学をしているが、着用者は3名である。着用をいかに上げていくかが、大きな課題になっている。

各学校でも取り組んでいるが、本年度に入って高野連や高体連等の部活単位でも、特に部活で遅くなり暗くなる場合等は、率先して着用するよう生徒にアプローチしている。

昨年、自転車の通学許可の条件として損害保険の加入を義務付けた。ヘルメットに対しては、努力義務化ということと金銭的な問題があるので、通学許可の条件とはできない。

委 員：当校は、70歳以上の方に対して高齢者講習を行っている。75歳以上は、認知機能検査も行っている。今までに5,000人程が受講している。信号機の無い横断歩道の停止率が、新潟県は全国で最下位、第一位は長野県で、8割位が止まると言われている。高齢者講習の中では、停まらないと違反になるということを知らない人が多い。講習会の中でも、本人は一時停止しているつもりでも、タイヤが動いている人が多い。

委 員：高校生は自宅から通学している人が多いと思うが、駅経由で自転車に乗って通学している人も結構いると思う。駐輪場に止めてある自転車にヘルメットを置いて乗る時に着用することは、大人からしても少し厄介なものかもしれない。どうしたら、着用してもらえるかは難しいものがある。

今国会で交通安全についての法令が成立し、自転車の違反に対して青切符、実際に施行されるのは2年後であるが、ヘルメットの着用についても義務化になるかもしれない。

長野県に勤務した先生に聞くと、小学生の頃から、横断歩道を渡ったら「ありがとう」のお辞儀をするように指導している。20年30年続けているらしい。その子が車を運転するようになった時は、しっかりと止まってやるという循環になっている。

委員：学校では、「横断歩道は、手を上げて渡り終わったらお辞儀をする。」よう教えている。登校班では、黄色い旗を持って渡っている。子供達には、自分の命は自分で守るというのを教えていきたい。

－（４）について承認－

#### （５）その他

委員：今年４月に群馬県高崎市の踏切において小学４年生が電車にはねられて亡くなるという痛ましい事故があった。柏崎市でも平成22（2010）年８月の夏休みに警報器と遮断機のいずれもない踏切で当時小学５年生の児童が亡くなった。新潟県では、遮断機と警報器がいずれもなく、重大事故が起きやすいとされる「第４種踏切」が45か所残されているという報道がある。

柏崎市内には、信越線と越後線があるが、「第４種踏切」は、何か所あるかと事務局に聞き、JRに確認してもらい市内には、「第４種踏切」は無いと回答を得た。ただ、越後線に警報機のみ「第３種踏切」が1か所あるとのこと。各小学校でも、踏切の渡り方等は交通安全教室をとおして指導をしてもらっている。「第３種踏切」を遮断機が付いた。「第１種踏切」にしていきたい。

議長：「第４種踏切」については、前にも議会から要望があったが、JRの回答は「踏切そのものを閉める」とのことでした。地域の方にとっては大切な踏切ですので、PTAから要望があったということJRに伝える。

委員：市道11-112号橋場踏切から瑞穂中グラウンドまでの200m間に、5mくらいの防風ネットを2か所くらい設置してほしい。

議長：それぞれの地域から、冬場の防風ネット・防風柵・防雪柵等の御要望が多く寄せられている。もう一回地域の方々、PTAの皆様と瑞穂の問題も含めて確認させていただき、予算もかかるし、地権者の御協力がいただけるかもあるので、御意見を踏まえて少し検討をさせていただきたい。

## 5 閉会